

令和元年度夏の文化財展

和爾地域の考古学

令和元(2019)年6月29日(土)~7月21日(日) ※ 9:00~17:00

※月曜日、15日(月·祝)、16日(火)は休館 会場:天理市文化センター1階展示ホール

◉文化財講演会

会場:天理市文化センター1階展示ホール 日程:令和元年7月14日(日) 14:00~16:00

※終了後に展示解説実施

天理市内には、原始・古代から近現代に至る数多くの文化財が所在します。天理市教育委員会文化財課では、平成18年度より夏と冬、年2回の文化財展示をおこない、市内の文化財と市の歴史について理解を深めていただけるよう努めています。

今回は令和元年度夏の文化財展特集として、「和爾地域の考古学」をお届けします。この地域の古墳や遺跡は、応神以後多くの大王(天皇)に妃を送り出した有力豪族ワニ氏の実像に迫る鍵を握っています。発掘調査成果の紹介を通じて、ワニ氏の姿を考えます。

天理市教育委員会 文化財課



和爾地域とその周辺

現在の天理市北部から奈良市南部にかけての一帯には、盆地東方の大和高原から西に流れ出る川に挟まれるように、いくつもの丘陵が盆地内に張り出しています。

なかでも、天理市和爾~櫟本町周辺を 西に流下する菩提仙川・楢川・高瀬川に 挟まれた丘陵(和爾丘陵・東大寺山丘陵) 上や低地部では、これまでに多数の発掘 調査が実施されています。

和爾地域周辺で明らかになった数々の 考古学的成果を振り返り、かつてこの地 に勢力を張ったとされる古代豪族ワニ氏 の姿を考えたいと思います。

※本稿では現在の和爾町と隣接地域を含めた範囲を「和 爾地域」と呼んでいます。

古代豪族 ワニ氏

フニ (和爾・和珥・丸)氏は日本古代の豪族です。葛城氏に並ぶ勢力を誇った大和の有力な豪族で、応神天皇以後7代(応神・反正・雄略・仁賢・継体・欽明・敏達)の天皇に后妃を送り出したとされています。現在の天理市和爾町付近に勢力を張っていたと考えられており、6世紀代の欽明朝期には春日山麓(現在の奈良市付近)に本拠を移したともいわれますが、謎が多く残されています。その後も小野・櫟井・柿本氏などのワニ氏の同族が和爾・櫟本周辺に住み続けたことが知られています。

現在の和爾地域には、ワニ氏の祖神を祀ったとも言われる和爾坐赤阪比古神社や、『古事記』『日本書紀』に記事の見える「ワニ坂」に比定される和珥坂下伝承地があります。このほかにも、和爾地域周辺に残る多数の遺跡・古墳・寺跡は、古代豪族ワニ氏と関わっているものが多いと考えられています。





人々の暮らしは主に和爾丘陵周辺の低地からはじまりました。森本窪之庄遺跡・和爾森本遺跡では、弥生時代中期から人々が居住していたことが確かめられています。工場建設に伴って発掘調査が実施された和爾森本遺跡では、弥生時代後期後半~古墳時代前期に遺構・遺物が特に増加し、その後も活発な状況が続いたことがうかがえます。





一方、和爾丘陵上では弥生時代後期末~古墳時代前期の集落跡、古墳時代中期の集落跡などが見つかっています。なかでも丘陵北端付近で見つかった古墳時代中期の四面庇付掘立柱建物は、居住用ではなく儀礼用の特殊な建物であった可能性が高いとされています。丘陵上の古墳時代集落の中心は、現在の和爾町集落の付近にあったものと想定されています。

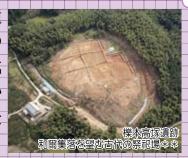
東大寺山丘陵上に相次いで築かれた古墳時代前期の東大寺山古墳・赤土山古墳からは多数の副葬品・埴輪が出土しており、その質と量は群を抜いています。これらの大型前方後円墳を造営した集団が、のちの古代豪族ワニ氏と系譜的に関連するのかどうかについては、様々な議論があります。





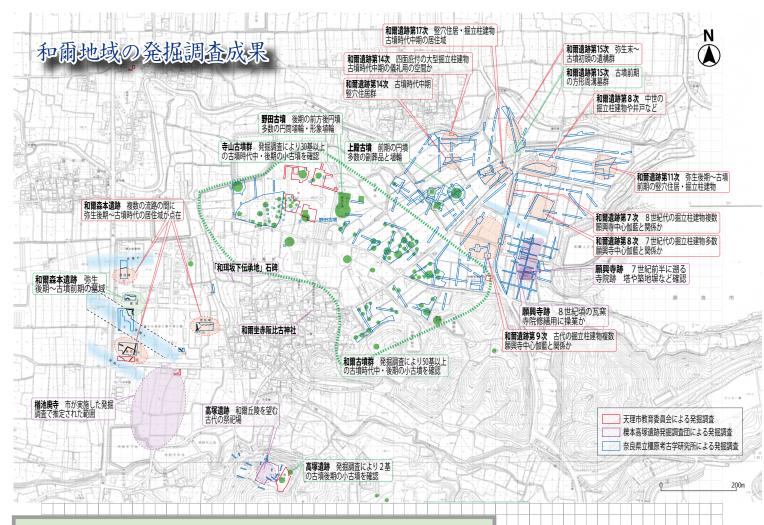
和爾丘陵でも東大寺山古墳と同時期に古墳の造営が始まります。上殿古墳は中規模の円墳ですが、大型前方後円墳に匹敵するような内容の副葬品を有していました。その後、古墳時代中期になると丘陵上で古墳の築造が増加、後期には小規模な円墳が多数築かれ、全体では350基以上と推定される群集墳となります。ワニ氏と密接に関わる群集墳と考えられています。

和爾丘陵の南側、東大寺山丘陵の北端に位置する櫟本高塚遺跡では、6世紀後半に山の中腹を切り開いた広い平坦地が見つかりました。平坦地には社のような特殊な建物があり、その北側斜面には高坏の破片が散乱した状態で出土しました。何らかの祭祀行為がおこなわれていたと考えられ、現代の神社につながる原始的な姿といえます。





和爾地域は古代寺院が集中する地域としても知られています。願興寺はワニ氏の同族とされる小野氏が造営したと考えられている古代寺院です。橿原考古学研究所の発掘調査により、塔基壇やそれをめぐる築地塀、伽藍修繕用の瓦窯などが見つかっています。このほかにも、櫟本町の柿本寺跡・長寺跡、楢町の横池廃寺などで瓦等の出土が知られています。



出動! 発掘現場レポート!!

平成30年度下半期の調査

天理市教育委員会は平成30(2018) 年度下半期に発掘調査を3件実施しました。ここではその成果をいち早くお知らせいたします。

■ヒエ塚古墳第4次

大和古墳群基礎調査に伴う発掘調査で、古墳築造以前と考えられる谷筋と海軍柳本飛行場に関連すると思われる施設を確認しました。

■東乗鞍古墳第3次

昨年度に引き続き、天理大学との共同調査として東乗鞍古墳の発掘調査を実施しました。前方部西側の墳丘裾を確認しました。

■平等坊・岩室遺跡第37次

個人住宅建設に伴い岩室町内で発掘調査をおこないました。弥生時代前期末~中期初頭の土器を多く含む土坑などを確認しました。

平成30年度の調査成果は 今年度冬の文化財展で 展示するよ!



田原本町 唐古・鍵考古学ミュージアムからのお知らせ

7月・8月・12月・1月はミュージアム観覧料無料! 「ヤマト弥生時代研究」講座(全5回)や、夏休み子ども向けイベントなどもあります。 史跡公園では、今秋も「弥生のムラまつり In 唐古・鍵」をおこないます。 これらイベントの詳細はHPをご覧ください!

唐古・鍵考古学ミュージアム TEL: 0744-34-7100 天理市教育委員会・田原本町教育委員会は文化財展示を連携して実施しています。



■平成30年度下半期の調査遺跡



■ヒ工塚古墳第4次 航空写真(上が北)

発行◆天理市教育委員会文化財課 天理市埋蔵文化財センター 〒632-0017奈良県天理市田部町441-2 Tel·Fax 0743-65-5720

印刷◆

※「天理市埋蔵文化財センターだより」Vol.29 は令和元年度冬に発行予定です。お楽しみに!